

やまのくち  
山之口地区

ひがしだけ ふもと  
東岳の麓に細長く広がる山之口地区は、約80%を林野が占めています。また、地区内には孤立丘陵が多数見られるのも特徴です。この地区では今から1万7千年前の旧石器時代から人が住み始めていたことがわかっています。

やまのくちこぶん  
①山之口古墳（富吉）**古墳** **柱**

山之口町に残されている県指定の史跡です。円墳が2基、東西に並んでいます。昔はこの2基以外にも8基の古墳が県の指定史跡となっていました。現在は壊されて残っていません。



現在の様子

はぎがくほ いせき  
②萩ヶ久保第1遺跡（富吉）**縄文** **古代** **中世**

山之口町で初めて発掘調査が行われた遺跡です。ここからは、縄文時代の落とし穴や調理施設である集石とともに、土器や石器がたくさん見つかりました。



トトロロ石器

鎌の形をしているが表面はツルツルに磨かれている。



落とし穴

大きさ：1.4 m × 0.9 m  
深さ：約0.8 m

おうじやま  
③王子山遺跡（花木）**旧石器** **縄文**

山之口小学校の校舎建て替え工事の時に発掘調査を行いました。

今から1万3千年くらい前と8千年くらい前の縄文時代の集落跡です。竪穴住居跡や集石のほか、石で組んだ炉（配石炉）や燻製施設（連穴土坑）といった様々な施設が見つかりました。都城で縄文時代の始まり頃の集落跡が見つかったのはこれが初めてです。

また、剥片尖頭器と呼ばれる、今から約2万年前の、旧石器時代の石器（槍の先）も発見されました。



縄文時代の始まり頃の土器  
土器の表面に粘土紐をはり、飾りつけたもの（隆帯文土器）。



連穴土坑

二つの穴が地下でつながっている。肉などを燻製する施設といわれている。

◆◆炉穴（連穴土坑）◆◆



炭のようになったドングリ



炉穴を真ん中から見たところ

やまのくちじょう  
④山之口城跡（麓）**中世**

亀鶴城とも呼ばれた城です。戦国期には伊東氏、島津氏、北郷氏などが支配しました。「庄内十二外城」の一つです。

元和元年（1615）の一国一城令により廃城になりました。



十輪寺から見た山之口城跡



大きな石を並べた炉



剥片尖頭器

槍の先につける石器



しまづかんでんこうじょう  
⑤島津寒天工場跡（永野）

江戸時代の終わり頃は、どの藩も財政難でした。そこで、薩摩藩では寒天を生産し、中国やロシアなどに密輸することでお金を蓄えました。

【そのほかの遺跡と史跡】

（中世）  
尼ヶ城・七裏城・鶺ヶ城・三俣城・俵ヶ城  
すずのヶ城・田原陣跡・豊後陣跡・走湯神社  
修善寺跡・福王寺跡

（近世）  
石敢當・一ノ渡番所跡・日當瀬番所跡

中川内番所跡・飛松番所跡



復元された寒天工場跡

